

相生歴史マップ資料2 犬塚五輪塔

犬塚とは、飛鳥時代、聖徳太子(厩戸^{うまやど}の王)に仕えた秦河^{はたのかわ}勝^{かつ}が狩りに出た際、二匹の犬のお陰で大蛇の難を逃れ、犬と大蛇を祀^{まつ}るために三本卒塔婆^{そとば}を建てたという伝承が残されています。

五輪塔とは、密教で五大を表す地輪(四角)・水輪(円)・火輪(三角)・風輪(半月形)・空輪(宝珠形)の五つの形からなる塔で、平安中期以後は供養塔として、また鎌倉以後は墓標として広く用いられてきました。この石造五輪塔は花崗岩製で、空輪の一部がこわれていますが、各部完存しており、様式は鎌倉後期から南北朝期の形式をよく示しています。

表面に梵字^{ぼんじ}(サンスクリット語)の一字も刻まない素朴な作でありながら、形式はよく中世五輪塔の典型を踏んでおり、総高 172 c m で、相生市に残される五輪塔としては最大級で、貴重なものとなっています。

参照：相生市 HP





兵庫県道 44 号相生宍粟線(テクノライン)の三濃山^{みのうさん}トンネルの手前、
800mほどに左に入る道があり(車止め有)、そこを左手にすぐです。
右側の道はテクノラインではなく旧道です。

